

スマート農業に関する今後の主な検討課題（案）

○ 研究開発等の取組方向の再整理

研究会において、スマート農業の将来像やその実現に向けたロードマップ等を示した「中間取りまとめ」を平成26年3月に公表し、その後も、重点的に取り組むべき課題の明確化や、人工知能やI o Tの活用方針等も整理して、研究開発等を推進してきたところ。

中間取りまとめから3ヵ年が経過したことを契機に、スマート農業の更なる推進に向けて、改めてこれまでの研究開発や現場実装等の進捗状況を確認し、今後の取り組むべき方向性や、具体的な研究課題等を再整理することが必要。

○ 「農業機械の自動走行に関する安全性確保ガイドライン」のフォローアップ

当該ガイドラインの策定後、自動走行トラクターの使用状況やガイドラインの順守状況等について関係者の協力を得ながらフォローアップを行い、ガイドラインの実効性の検証を行っていくことが必要。

平成29年度予算「農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討事業」において、①自動走行トラクター以外も含めたロボット農機の安全性確保策のルールづくり、②遠隔監視下における自動走行の実現に向けた安全性確保のための検証を実施する予定。

○ スマート農業の全国展開に向けた発信活動

昨年7月に、農水省において、スマート農業の普及を目的に、地方行政機関における先進的取組事例の共有、メーカーからの情報提供や実機展示を行う「スマート農業推進フォーラム」を開催。

来年度も引き続き、農業者や都道府県の普及指導員等を対象としたイベントを開催して、参加者と企業側のマッチングを推進するなど、地方へ発信していく取組が必要。